

しまねの土地改良だより

平成 25 年 12 月 1 日発行(第 33 号)  水土里ネット島根

■農業農村整備の集いを開催 =全国から土地改良関係者750名が参集=

全国水土里ネット及び都道府県水土里ネット共催による「農業農村整備の集い」が、11月26日午後から、東京都千代田区・砂防会館別館「シェーンバッハ・サボー」で開催され、農林水産省から林農林水産大臣をはじめ、吉川副大臣、横山政務官、實重農村振興局長外幹部、また、120余名の衆・参両院議員、約750名の各都道府県土連関係者などが参集しました。



開会挨拶をする野中全土連会長

開会にあたり、野中全土連会長は「近年の我々を取り巻く環境を振り返ると、平成22年度には、土地改良予算の大幅に減額され、我々は、農業農村の将来に大きな不安を抱えることになった。農業水利施設の老朽化も進行しており、国民の命と財産を守る観点からも対策を急がなければならない。政府においては、林農林水産大臣を本部長とする攻めの農林水産業推進本部などが立ち上げられ、活力ある農村の実現に向けて精力的に施策が検討されているが、平成26年度予算編成にあたっては、安定的、計画的な事業執行に不可欠である当初予算の確保について最大限の支援をお願いする」と挨拶。次に林農林水産大臣から「我が国の農業農村を巡っては、農家の減少、高齢化などの状況下において、農業の競争力を強化し、美しく活力ある農村を作り上げることが待ったなしの課題となっている。農業生産の基盤は農地と水であり、今日、一億二千万人を超える国民に食料が安定的に供給されているのは、土地改良に携わってこられた方々の絶え間ない努力によるものであり、今後も農地と水を整備・保全し、子孫へと継承していくことが我々世代の責務である。平成26年度予算編成においては、農業の競争力を強化するための農地の大区画化や汎用化、農業水利施設の耐震化や長寿命化対策などを推進していくため、現場のニーズに対応した事業の実施、最大限の予算確保に努めてまいりたい」と祝辞が述べられました。続いて、農業農村整備の動向について、實重農村振興局長からの情勢報告や土地改良区からの事例発表が行われ、最後に、平成26年度当初予算の確保を強く訴えた要請書（次頁掲載）が全会一致で採択され、水土里ネット三重の亀井会長の音頭で、農業農村整備の一層の推進に向けて”ガンバロー三唱”を力強く唱和し閉会しました。



祝辞を述べる林農林水産大臣

・農業委農村整備の集いを開催	1
・要請書	2
・下水道展2013に出展	3
・平成25年度換地計画実務研修会・換地委員等実務研修会開催	3
・お知らせ	4
・今後の主な予定	4

要 請 書

安定的・計画的な事業執行のために、平成26年度当初予算において、平成22年度に大幅に削減された農業農村整備予算が復活したと実感できるような規模を確保するとともに、特に、担い手への面的集積に不可欠な農地整備や国土強靱化の考えに即した防災・減災対策の推進を図ることとし、以下のとおり要望する。

- 1 TPP交渉により、日本の食の安全・安心を担い、多面的機能を発揮している農業・農村とこれを支える農家の生産意欲に悪影響を及ぼすようなことは、国として断固行わないこと。
- 2 食料自給率の向上と担い手への農地集積の加速化を実現し、攻めの農業を展開するため、水田の大区画化や汎用化、畑地かんがい施設の整備をはじめとした各種の対策を、国が責任をもって推進すること。
- 3 東日本大震災を始めとする災害からの復旧・復興に向け、農業用施設、農地海岸保全施設等の復旧や農地の大区画化、除塩、除染等の対策を加速的に進めること。
- 4 国民の命と財産を守り、我が国の食と農林漁業を再生するため、国土強靱化の考えに即し、老朽化した農業水利施設の保全整備や耐震化等の防災・減災対策を着実に推進すること。
- 5 農地中間管理事業の運用に当たっては、土地改良区が有する技術と経験や地図情報システムを活用できる仕組みとすること。加えて、機構による借り受け等が、土地改良区が担ってきた水利調整や農業用水路等の保全管理に与える影響を十分に考慮すること。
- 6 多面的機能支払いの検討に当たっては、農業の構造改革の進行が地域資源の保全管理等に与える影響を十分に考慮するとともに、多くの地域で有効活用され、定着している「農地・水保全管理支払交付金」の地域ぐるみの共同活動で資源を守る仕組みを十分に尊重すること。
- 7 農村の資源を有効に活用し、再生可能エネルギーの普及、維持管理費の低減等に資するため、小水力発電等を推進すること。

■ 下水道展 2013 に出展 =くにびきメッセ・松江市環境フェスティバル=

11月17日、松江市のくにびきメッセ大展示場において、自然環境・ゴミ減量・地球温暖化・水環境等の諸問題に対して、イベントを通じて市民に環境意識を高めてもらおうと、松江市と松江環境市民会議共催の「松江市環境フェスティバル」が開催されました。

このフェスティバルの趣旨・目的に沿い、下水道事業が環境に果たす役割を広く県民に周知し、啓発普及を図っていくために、島根県土木部下水道推進課外により「下水道展しまね2013」がフェスティバル会場の一角に出展し開催され、本会も農業集落排水事業のPRと事業推進のため、出展参加しました。

農村生活と農業集落排水、地域の水循環について、実際に水を流しながらわかりやすく説明する模型の展示や、松江市東出雲町の農業集落排水施設で発生する汚泥で作られた肥料「おすぎとチップ」200袋を無料配布し、環境負荷の少ない循環型社会の実現に貢献していることなどをPRするとともに、その肥料を用いて栽培した野菜を販売しました。

用意した200袋の肥料は早々に配布し尽くし、また野菜販売も好調な売れ行きで、来場者の環境や食の安全への関心の高さが伺えるとともに、環境に配慮した下水道事業の推進に理解を深めていただいたことと思います。

当日は松江市環境フェスティバルということで、坪田愛華さん遺作「地球の秘密」の朗読会など多数の催し物やご当地グルメの屋台もあり、大勢の来場者がありましたが、集落排水モデル模型の前も、水槽内のメダカやモエビ等の生き物に子供達の関心が集まり、大変な賑わいとなりました。



集排模型展示の様子

■ 平成25年度換地計画実務研修会・換地委員等実務研修会開催

11月25・26日の2日間に亘り、県・市町村の職員、土地改良区役職員、換地技術者及び換地委員など54名の参加により、換地事務に関する研修会が県土連で開催されました。

当日は、中国四国農政局農村計画部土地改良管理課の中村土地改良指導官、島根県農村整備課用地管理グループの堀田主任、島根県農業経営課農地利用促進グループの重本グループリーダー・野津企画員、また、本会の坂本農地集積リーダーが講師を務め、それぞれのテーマについて講義が行われました。



研修会の様子

権利関係が複雑になる中で換地業務をスムーズに進めるために、今回の研修内容は、土地改良法の概要、換地理論、基礎調査・換地設計基準といった換地事務の基礎的な知識の習得、農振法・農地法などの換地に関連する法律、換地関係登記事務として相続概説・不在者の財産の管理について、また、実務として土地評価方法、換地計画書の作成について研修が行われ、参加者はメモを取りながら熱心に聞き入っていました。

本会では、今後も換地事務担当者の方々に関心を持っていただけるような研修内容にしていきたいと考えています。ご意見・ご要望等ございましたら本会までお寄せください。

※問合せ先 水土里推進グループ 換地・農地集積担当 (TEL. 0852-32-4141)

■お知らせ

◆県央及び益田管内の県土連業務説明会の中止について

今夏の豪雨災害により延期しておりました県央及び益田管内の県土連業務説明会は、今年度は開催中止といたしましたのでご了承願います。

なお、平成24年度業務及び決算報告は、第56回通常総会においてご説明いたします。

◆平成25年度県土連土地改良功労者表彰候補の推薦について

既に会員の皆様にはご案内しておりますが、平成26年3月26日に開催する「第56回県土連通常総会」において、土地改良関係業務に功労または功績のあった個人に対し表彰を行いますので、該当の方がいらっしゃいましたら、1月31日までに「推薦調書」を提出していただきますようお願いいたします。

※問合せ先 総務企画担当 大岩・福島 (TEL. 0852-32-4141)

■今後の主な予定

- 12月 4日 (水) 平成25年度農地・水保全管理対策
中国四国農政局長最優秀賞第2次選考委員会 (岡山市)
- 12月 4日 (水) 中国四国農政局による地域政策に関する説明会 (松江市・浜田市)
- 12月19日 (木) 農林水産省農村振興局による地域政策に関する説明会及び意見交換会 (松江市)

県土連年末・年始カレンダー

12月					1月					
27	28	29	30	31	1	2	3	4	5	6
金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
○	休	休	休	休	休	休	休	休	休	○

○：通常業務

みどり
「水」「土」「里」
の未来を創造し働きます

「水」・・・農業用水や地域用水
「土」・・・土地や農地
「里」・・・農村空間、農家や地域住民が一体となった生活空間

水土里ネット島根 (島根県土地改良事業団体連合会)

〒690-0876 島根県松江市黒田町432-1 島根県土地改良会館 TEL 0852-32-4141
ホームページ<http://www.shimanedoren.or.jp/> メールsmndoren@shimanedoren.or.jp